

石油・天然ガス小委員会報告書に
「盛り込むべきポイント」についての意見

石油化学工業協会
会長 小林喜光

1. 石油の位置づけについて

石油化学産業は基礎的な原料であるナフサの供給を製油所から受けているユーザ一業界という立場から、国内の石油企業を通じた原料の安定供給の確保は重大な関心事であります。こうした観点から、石油精製業が設備最適化等経営基盤の強化を図るための有効な措置が官民一体となって着実に実行されることを強く期待しています。その意味で、石油は単に燃料としてのエネルギー供給という意味に加えて、日本の産業にとっての原料供給の重要な一翼を担っているという点についても触れていただきたい。

2. 国際競争力強化について

石油産業においては、設備最適化に加えて製品輸出や海外投資等による海外展開の推進及び技術力・資本力強化も含めた国際的競争力強化策を進めることが不可欠と考えます。更に、激化する資源獲得競争を勝ち抜く人材力を強化するなどにより、資源小国という弱点を克服し海外からの資源・エネルギーの供給の不確実性に対応できる、グローバルな競争力を有し世界に通用するような石油産業が構築される事が必要と考えます。そのためには、石化産業も含め企業がその活力を存分に発揮できるよう国際的なイコルフットィングの視点に立って規制の合理化やエネルギーコストの低減などの事業環境整備が重要であるとともに、特に資源確保の観点からは民間の努力と一体となった政府による強力な資源外交の強化も重要と考えますのでこれらの点について言及していただきたいと考えます。

3. 石油精製と石油化学の連携及び事業者の自主性尊重

石油精製と石油化学はこれまでも RING 等により用役の共同利用などによりコスト低減の努力をしてきておりますが今後も国民生活と産業を支える基礎素材産業としての持続的発展を遂げるためには、精製と石化が業種の壁を越えて省エネやコスト削減に取り組むことが重要であります。石化産業としてはこれまで個別企業の自主的判断により設備の停止などの事業再構築を進めてきておりますが、同時にイノベーションにより技術力強化を通じて産業としての高度化を進め、付加価値の拡大を図ることが必要であると考えております。今後とも業種の特性を踏まえつつ事業者の自主性を尊重しながら事業基盤整備を図るようご配慮いただきたいと思っております。

4. 地域社会の活性化対策との連携

石油精製と石油化学はこれまで地域のコンビナートを構成する主要産業として、地域の雇用拡大、地域社会の活性化とともに発展を遂げてきたところであり、今後ともその位置づけは変わらないと思われます。地域の特性に応じて特徴ある地域経済の発展に寄与する重要な担い手としての産業振興という視点に立って、産業としての魅力アップと有能な若手人材の確保など地方自治体と連携しつつ有機的・総合的な施策を講じることが必要と考えますので、その点についても言及いただくようお願いいたします。

5. 保安・安全対策の強化

石化業界においては、近年度重なる重大事故により関係者の皆様に多大なご心配とご迷惑とおかけしたことを深く反省しており、今後の安全・事故防止対策に万全を期すべく、石油業界と同様に産業保安に関する自主行動計画を策定し、それに基づき安全文化の醸成に向けた措置等を講じているところです。また自然災害に対する強靱化対策についても、生産設備等の耐震基準への適合を重要課題として取り組んでいるところであり、産業界の努力を後押しするための支援措置の拡充強化をお願いいたします。